

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在地	台東区西浅草 3-19-3 スターライト浅草 1F
施設名	ミアヘルサ保育園ひびき浅草

1. 活動のテーマ

<テーマ>

植物

<テーマの設定理由>

戸外活動で身近な草木や木の実を持っている姿や普段の食事や食育の中で野菜を見たり触れたりする機会があり、「野菜はどうやって大きくなるんだろう？」と疑問を持つ姿が見られることから、水やりや観察、食育などの体験を通して身の回りにある植物や食べ物を“大切にしたい”という気持ちや“育ててみたい”という意欲に繋げていきたいと考えたため。

2. 活動スケジュール

2025 年度 5 月より開始。室内あそびや戸外遊び、食事の際の子ども達の様子を観察、また、言葉や発見に耳を傾け、その様子を踏まえ興味関心に合った食育を考え実践する。土起こし、野菜の苗植え、水やりなど保育者と一緒に 1 から自分たちの手で育て収穫までの流れの中で子どもたちの新たな発見や思いなど子どもたちの様子をドキュメント化する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

絵本、図鑑で好きな食べ物や野菜、果物を見つける。苗を植える為、プランター、肥料を準備。子どもたちの興味のある植物の中で子ども達と一緒に育てやすい（ナス、キュウリ、トマト、ピーマン、スイカ、メロン、さつまいも）の苗を使用する。その他、シイタケ栽培セット、いちご果樹園等、土以外から育つ植物ものを準備し観察、収穫をする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

5月	土おこし 苗植え（ナス、キュウリ、トマト、ピーマン、メロン、スイカ、さつまいも） 水やり（毎日）
6月	バケツ稲 ピーマン、ナス、トマト収穫開始
7月	キュウリ収穫開始
10月	シイタケ栽培開始（収穫）
11月	バケツ稲収穫
12月	芋ほり 食育にて芋つぶし、スイートポテトづくり
2月	いちご狩り

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

<p>0歳児：保育者と一緒に野菜の苗や葉に触れたり、他クラスが水やりをする様子を見たりする中で、植物をじっと見つめたり手を伸ばして触れようとする姿が見られた。保育者の言葉がけに表情を変えながら関心を向け、収穫した野菜や果物を手に取ってにおいをかいだり顔を近づけたりと五感を通して植物に親しむ様子が見られた。</p>
<p>1歳児：絵本や図鑑を見る中で知っている野菜や好きな野菜を見つけ、指さしをして保育者に知らせる姿があった。水やりや観察をする中で、葉っぱや花がある事に気づき、「葉っぱ、あった。」などと言葉や仕草で伝える姿がある。保育者と一緒に野菜を収穫すると自分の鼻に近づけて匂いをかいだり、給食に入っていることに気づき保育者や友達と共有する姿も見られた。</p>
<p>2歳児：野菜を育てる中で日々の変化に興味を持ち、「葉っぱが大きくなって」「小さい野菜ができて、赤ちゃんみたいだね」など気付いたことを周りに知らせる姿が見られた。水やりや収穫を楽しみにしながら継続して関わり、収穫した野菜を観察したり、改めて図鑑で見てみたり、匂いをかいだりして関心を深めている。さらに食育活動の中で自分が収穫した野菜の断面を見たり、おやつ作りを体験すると、新たな発見や感触にも気付くことができ、自分で作ったものを食べると喜んで完食する姿も見られた。給食の中に同じ野菜を見つけると嬉しそうに知らせ、普段苦手なものも自ら食べてみようとする意欲が見られるようになった。野菜や果物など、普段給食や絵本の中で見ているものを一から育て、収穫し、実際に食べることで植物や食への興味に繋がっている。</p>



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

野菜の栽培や観察を継続して取り入れることで子どもたち同士で気づいたこと、発見したことを伝える姿が見られ、子どもならではの視点や主体的な気づきの面白さに改めて気づくことが出来た。また、野菜の成長への関心だけでなく匂いをかいで確かめたり、給食の中に同じ食材を見つけたりと生活と結びつけながら興味が広がっていく様子も見られた。今回の取り組みを通して環境を通した体験の中で子どもたちの興味や気づきが広がることを改めて感じた。今後も子どもたちの視点や主体的な関わりを大切にしながら自然や食べ物への関心がさらに深まるような環境づくりを行っていきたい。